

研修報告書 No. 7

所 属： 昭和医科大学病院

研修先： 土佐市民病院

この度は約一か月間、高知県の土佐市民病院において地域医療研修の機会をいただきました。高知県、特に高知県内部でも土佐市の高齢化率は日本全国レベルに高く、今回地域医療研修に臨む前に「日本の未来を見る」つもりで意気込んでいました。

個人的な主観にはなりますが、日々の診療で驚いたのは、同じ 90 代でも東京の 90 代と高知の 90 代とでは、身体能力や認知機能が明確に違っており、高知の高齢者の方が平均的に元気だという印象を受けました。高知県では広大な土地に人口が散らばっている故に、高齢でも農業を行っている方が多く、新鮮な野菜や魚介類も入手が容易なため、健康的な食事を取られていることが影響しているのではないかと考えています。

研修先の病院では、医師臨床研修を行っている大学病院の業務では研修医はあまり関わらない「診療点数」や「指導料」に関する知識にも身近に関わることが多かったため、今後の医者業務に役立つ知識を教わったと感じています。大学病院では複数の医師で構成されている班で治療方針を決めていくことが多かったため、自立して考える機会が少なかったですが、今回の地域研修で病棟を担当している際は、患者さんのための最善策とは何か、出来る最大限とは何かを良く考えさせられました。また、患者さんのご自宅や施設を訪問し、彼らの生活環境を実際に目で見ることも、非常に貴重な経験でした。特に高齢者の多くは認知、ADL、身体能力、コミュニケーション、栄養、精神面など、さまざまな側面で複合的な課題を抱えています。そのため、「普段どのように過ごしているのか」を想像し、寄り添って診療する姿勢が重要だと改めて気づかされました。

病院では、医療スタッフの皆様や看護師、医師の方々が親身に接して下さり、患者さんや業務内容についても気兼ねなく相談できたことが非常に心強かったです。土佐市民病院は三次救急病院と開業クリニックの中間のような立ち位置の病院であり、土佐市はじめ、周囲の町の医療需要だけでなく、心の安心をしっかりと支えていると感じました。

研修では主に外来を担当したり、外来で入院となった患者さんを受け持ちました。遠方から来院される患者さんも多く、これらの条件も治療方針で検討しておかないといけないことを気づかされました。

同じ「高齢化社会」であっても、東京などの都市部と違い、高知では地理的条件や社会インフラが根本的に異なっています。そのため、「日本医療の未来」を同様に当てはめて考えて行くことは、実際に研修をしてみて不可能と痛感しました。高知県の地域的な特性に合わせて包括的なケアの連携や在宅医療、訪問のシステム、在宅の緩和ケアやオンライン診療を今後もさらに発展させていく必要性が有ると感じました。

綺麗な山々や透明な水の川、坂本龍馬が目を向けている広大な太平洋があり、歴史や伝統文化に富んでおり、美味しい野菜や魚をはじめとした食事が沢山あり、都市部では味わえない悠々とした時間を過ごすことができました。今回お世話になった全ての方々に、心より深く感謝申し上げます。